

6月は日本では雨の季節です。しかし、アメリカや他の国々では、夏至を迎える6月は、最も花々が咲き乱れる、夢のような季節です。ジューン・ブライドと呼ばれる所以です。教会では、この季節、こどもの日・花の日礼拝が定着しています。万物が育ち、花香る季節に、神様の御心に適う者となる、レッスンを受け取りましょう。

### 聖なるものとなりなさい

6月には、もう一つ、ホーリネスの教会にとって大切なテーマがあります。それは「四重の福音」です。今朝のテーマは「聖化」です。イエス様を信じれば、すべての人は救われます。どんな悪いことをした人でも、皆から嫌われている人でも、地球の裏側にいる人でも、神様の愛は全人類を包んで、新しい命を与えてくださいます。

でも、それで終わりではありません。私たちは、信じてから、神様と共に歩む日々が始まるのです。神様の御心にかなう生き方を目指さなければなりません。これが、「聖なる者となりなさい」という、ホーリネスのメッセージです。

スポーツでも、音楽でも、外国語の習得でも、初級・中級・上級があります。上達すれば、それだけ楽しく、面白く、難しくなります。神様を信じることも、実はそうなのです。信仰生活のポイントは、祈ること、聖書を学ぶこと、教会に集まること、献金や奉仕をすること、イエス様を伝えることです。がんばりましょう！

### ヤコブの体験

CSでは、ヤコブの物語を連続で学んでいます。ホーリネスのテーマと、ヤコブという人の人生を、重ねてみると、いろいろな気づきと、深い味わいがあります。

ヤコブは、神様を信じてはいましたが、神様に祈りながらも、実は人生を切り開くのは自分の力だと、ガムシャラに思っていました。人を騙し、逆に理不尽な思いをしても、悔しさをバネに、家庭を築き、財産を蓄え、20年が過ぎました。

しかし神様は、ヤコブに信仰の上級問題を与えました。それは、「自分では解決できない問題」を与えられたのです。それは、聖なるものとなるための試練でした。ヤコブの心を襲ったのは、まず恐れでした。しかし神様はヤコブを、決定的に打ち砕くことで、きよい者にしてくださいました。彼の顔は、義の太陽で照らされました。

思い通りにいかない時って、苦しいものです。でも、神様は意地悪でそうしているのではありません。コーチが、勝利に導くために意地悪をするのでしょうか。先生が、将来のために生徒を潰すのでしょうか。私たちが聖なるものとなるためには、恐れと碎かれる経験を、避けて通ることはできません。しかし、その先に待っているのは、義の太陽の光と、共に戦ってくださる神様の臨在、イスラエルの喜びなのです。

雨に打たれて輝く紫陽花のように、私たちが神様に信頼して行きましょう。